

平成29年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進協議会会議録（要旨）

開催日時 平成30年3月5日（月） 午後3時～午後5時10分

開催場所 府中市役所北庁舎3階第6会議室

出席委員 12名

都留会長、並木副会長、鬼山委員、加藤委員、川崎委員、小出委員、鈴木委員、中島委員、沼崎委員、堀江委員、森委員、森田委員

欠席委員 なし

出席説明員等

町田政策総務部長、矢ヶ崎政策課長、河邊政策課副主幹、大木主査、奥主任

傍聴者 1名

議事日程

1 開会

2 確認事項

(1) 平成29年度第2回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）について

(2) 具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（対象：平成28年度）

3 審議事項

(1) 具体的な施策・重要業績評価指標（KPI）進捗状況の評価について（地方創生関連交付金対象事業、対象：平成28年度）

4 その他

会 議 録（要旨）

会 長 ただいまから、平成29年度第3回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を始めます。本日の委員の出席状況を事務局から報告してください。

事務局 （出席状況の報告）

会 長 傍聴希望について、事務局から状況報告をお願いします。

事務局 本日の傍聴希望者は1名でございます。

会 長 それでは、傍聴者に入室してもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局は傍聴者に入場の案内をしてください。

（傍聴者入場・着席）

会 長 続いて、本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局 本日配布した資料について説明いたします。

（配布資料の確認・説明）

【確認事項】

会 長 平成29年度第2回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会会議録（要旨）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 まず、資料1の会議録につきましては、10月に開催しました第2回会議の内容をまとめたものになります。委員の皆様から事前に修正のご連絡はありませんでしたので、この内容で公開の手続を進めたいと考えております。

会 長 ありがとうございます。この内容で了承、公開していくことになりましたが、よろしいでしょうか。

委員一同 （了承）

会 長 それでは、事務局は公開の手続きを進めてください。それでは続いて、「具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について（対象：平成28年度）」です。前回の会議で懸案となっていた担当課評価基準の考え方について、私と副会長、事務局に一任いただいておりますが、資料にまとめましたので、詳細について、事務局より説明をお願いします。

事務局 （具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について（対象：平成28年度）について説明）

会 長 資料2の内容を踏まえた資料3の修正内容について事務局より説明がありました。

若干補足しますと、平成27年度は既に評価しており、平成28年度は2年目の評価となるなかで、K P I評価は数値で判断するため、数値が下がれば評価も下がることで特に問題はありませんが、担当課評価については質的側面を考慮するものとし、かつ、その質的側面に関する記載は担当課の取組内容欄にきちんとあることを求めるものとして、本日ご提示している新たな評価基準を考えました。なお、直接的に本協議会と関係はありませんが、内閣府のまち・ひと・しごと創生本部でもK P Iの見直しを行っているようで、私としてはこの内閣府の動きも踏まえた上で、本協議会における活発な議論の結果として、この新たな評価基準が現状のベストであると思います。また、この評価基準により各施策の内容をもう一度確認したところ、施策「地域の連携によるにぎわいの創出」に関する協議会評価が気になりました。この施策の担当課評価は新たな評価基準により「B」に変更になりましたが、現状、協議会評価は「C」のままとなっています。協議会評価はK P I評価や担当課評価を総合的に判断することが前回の会議での合意事項のため、総合的な判断の結果として「C」のままでよいのか、あるいは「B」に変更するのか、改めて皆さんと議論する必要があります。この点について、まずは担当委員の考えを教えてください。

担当委員 K P Iの実績は2年連続で減少しており、評価は「C」となっています。担当課評価の記載欄には、「上記の取組は、平成28年度のK P I実績値には反映できていないが、取組としては概ね進捗しており、平成29年度以降のK P Iの増加は大いに期待できる。」と記載されています。そのなかで、担当課評価の取組内容としては、府中駅南口第一地区市街地再開発事業が順調に進捗していること、一般社団法人まちづくり府中の各事業の活性化に向けたコーディネートを進めるための準備が整ったこと、国史跡武蔵国府跡国司館地区

の第1期工事に着手するとともに、第2期工事のにぎわい創出のための民間市場調査を実施したこと、新庁舎の建設に向けた実施設計に着手したことなどが挙げられており、これらの内容は全て、これから事業を本格的に実施するための準備等として行われているものになります。これらの事業はKPIに反映されるような内容ではないため、この点から現状は協議会評価を「C」としていますが、担当課において取組自体が遅れているわけではなく、進捗状況が不十分であるわけでもないなかで、KPIに反映されるような事業はこれから実施されていくことや、そのための取組は進んでいることを評価するものとして、協議会評価は「B」とすることが適当だと思います。

会長 ありがとうございます。協議会評価は「B」とすることが適当だという担当委員の意見でしたが、いかがでしょうか。

委員 担当課評価の欄に「平成28年度のKPI実績値には反映できていない」と記載されているうちの「反映」という言葉について、私の解釈では、「現時点ではKPI実績値には影響を及ぼすものではないが、今後KPIに影響を及ぼす活動として評価できる」とか、「期待できる」という表現のほうがわかりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

担当委員 担当課が記載している文章表現のため、その修正を促すことはせず、協議会評価の欄にその旨を記載すればよいと思います。

委員 解釈として、「反映」よりも「影響を及ぼす」という表現がより適切だと思い、発言しました。ただし、この記載は担当課評価の部分になるため、協議会評価の記載は考えてもよいと思います。

会長 それでは、KPIの実績は再開発事業の工事等の影響により減少しているが、担当課の取組により、平成29年度の実績は増加することが合理的な根拠を持って予想できるため、協議会評価は「B」に変更することとし、事務局は念のため担当課に記載している「反映」という言葉の意味を確認して、必要があればその意味合いを含めた文章表現に変更することも検討してください。

その他に、何か気になる点などはありますでしょうか。なければ、事務局は今の変更点等を修正した上で、資料の公開手続を進めてください。

【確認事項】

会 長 「具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について（地方創生関連交付金対象事業、対象：平成28年度）」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 （地方創生関連交付金の概要、ラグビーのまち府中推進事業について説明）

会 長 ありがとうございます。それでは、本件に関する協議会評価を次の会議で決定すべく、各委員から意見をいただきたいと思います。

まず、私からK P Iについて、ラグビーに直接関連する指標が及びで、というのはそれから派生していく内容だと考えると、順番を入れ替えるほうがよいと思いますが、この順番に決まりはあるのでしょうか。

事務局 K P Iの順番につきましては、本市が国に提出した実施計画のとおりとなっておりますが、入れ替えることに問題はございません。

会 長 国に提出した計画との整合性を考慮すると、現在の順番で問題はないことが確認できました。他に何かご意見やご質問はありますか。

委 員 担当課評価に記載されているラグビーのイベントについて、平成28年度にどのくらい開催されたのでしょうか。来年度以降に評価する際に、どのイベントに何人が参加されたかを把握しておいた方がよいと思います。

事務局 本市が開催したイベントにつきましては、全て大学やトップチームと連携した事業となりますので、K P Iの に記載しているとおり5事業でございます。

委 員 先ほど、国に提出した実施計画の話がありましたが、そもそも、K P Iやその目標値はどのように決めたのでしょうか。本協議会において、指標や目標値の適否まで議論してよいのかも確認しておきたい。

事務局 基本的には担当課で現状値を踏まえて、経費に対してどの程度の効果があるかを試算し、目標値を決定しております。また、指標や目標値につきましては、本協議会において実績値等を踏まえたご意見をいただきながら、担当課において変更を検討することは可能ですが、基本的には国が現在の内容で

交付金の対象事業として認めている関係もございますので、原則としては、このまま進めていくものと考えております。

委員 のK P Iについて、担当課評価としては から までのK P Iに関する内容が記載されているが、協議会評価も同様に から までのK P Iに対して評価すればよいのか。

事務局 のK P Iにつきましては、資料3の評価票で評価していただいておりますので、基本的には から までのK P Iに対して評価していただければと考えております。 につきましては、ラグビーのイベントをけやき並木通りで開催することも多くあることから、K P Iとして設定しているものでございます。

会長 から までのK P Iの実績が上がれば、 のK P Iの実績が上がるという単純なものではないと思いますが、この事業に のK P Iを設定する必要はあるのでしょうか。

事務局 総合戦略につきましては、本協議会でご審議いただきました内容を踏まえてK P Iを設定し、市が策定したものとなりますが、この交付金関連事業につきましては、各自治体がヒアリング等により国と事前に調整を図り、総合戦略に基づく事業のなかで、「稼ぐこと」につながる事業や「地域経済の活性化」につながる事業が対象になることから、様々な地域特性を出せる内容を検討した上で申請し、認められた経緯がございます。この経緯があったなかで、 のK P Iである「休日のけやき並木通りの歩行者交通量」につきましては、もともと総合戦略における施策「地域の連携によるにぎわいの創出」に設定した上で、交付金関連事業において当該施策に基づく事業となる「ラグビーのまち府中推進事業」、「中心市街地活性化事業」、「市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業」にも同様に設定し、全ての施策及び事業が連動してこのK P Iの実績に影響を及ぼすものと捉えておりますので、この点をご理解いただき、各施策及び事業の評価をお願いしたいと考えております。

会長 交付金関連事業は総合戦略と連動していること、そしてK P Iの実績（結果）のエビデンスとすることについて説明があり、この歩行者交通量に関するK P Iは各施策及び事業において共通項となっていることがわかりました。ただし、この歩行者交通量は雨が降っていない特定の日に計測したもので

あり、毎月の平均ではないため、計測日の状況によって結果が左右されるという不確実性があると思います。

委員 実際にラグビーのイベントが実施された日はけやき並木通りに人が多くいましたが、その日に計測していないのであれば関連性がないと思います。また、定期的に交通量を計測しているのであれば、そういったイベントがあった月は多かったという結果が出てくると思いますので、その計測方法であればこの指標にも重要な意味があると思います。

会長 イベントがある日に計測すると恣意的になることもあり、悩ましいところです。

事務局 歩行者交通量のKPIにつきましては、「ラグビーのまち府中推進事業」においては関連事業を実施することにより、いかにしてまちのにぎわいを創出するか、この点を計測するためのアウトカム指標となっております。その他に、事業の直接的な効果を計測するアウトプット指標も設定している形であり、これは他の交付金関連事業においても同様でございます。先ほどの説明とも重複してしまいましたが、各種事業を実施することでにぎわいを創る、まちを活性化させることを計測するアウトカム指標として、歩行者交通量のKPIが共通項として設定されているとご理解いただきたいと思います。ただし、この点とは別に、計測方法が適当であるかについては議論の余地があるかと思いません。

会長 「ラグビーのまち府中推進事業」においては、 のKPIは明確なアウトプット指標であり、 のKPIはアウトカム指標に近い内容、 とのKPIはアウトカム指標だと思います。歩行者交通量については、関連事業の実施日に合わせて計測すると恣意的になり、平均的な交通量を計測することもどうなのかと考えると、現状の設定にも一定の理解はできます。

委員 ここまでの話を整理すると、評価票には国に提出した実施計画と同じように から までのKPIが設定されていますが、本協議会としては事業の効果が直接的に反映される から までを評価するのであれば、 のKPIは評価票から削除してもよいのではないのでしょうか。また、評価票に記載されている取組内容は大枠というか抽象的なものになっており、先ほど他の委員もイベントの数や人数について質問されていましたが、もっと具体的な内容が記載されていないと評価すること自体が難しいと思います。このため、次回の会

議までにもう少し具体的な内容がわかる資料を事務局から提供してもらい、その資料に目を通した上で評価をした方がよいのではないのでしょうか。

委員 今の意見に加えて、ラグビーワールドカップは2019年に行われるため、KPIの実績はそこに向けて増加していく可能性があると思いますが、イベントの開催に向けた一過性の取組となっていないか、また、「ラグビーのまち府中」を定着するために、子どもからお年寄りまで幅広くファン層を定着できるような取組となっているかなど、持続性があるかどうかを我々の評価基準として持つことも必要であり、そういった視点から情報を収集することも考えた方がよいと思います。

会長 具体的な中身がなければ評価できないという意見は当然だと思いますので、次回の会議までに事務局からもう少し情報を提供してもらいたいと思います。

委員 それらの取組が2019年以降のことも見据えているのかも確認していきたいと思います。

会長 それでは、そのように取り扱うこととします。

事務局 次回の会議までに資料を作成し、ご提供させていただきますが、KPIに関して把握できている詳細な内容につきまして、この場でお伝えさせていただきます。まず、のKPI・商品開発につきましては、ラグビー型トートバッグを作製し、市内のイベントで販売しております。また、オリジナル菓子につきましては、ラグビー型のアーモンドチョコをモナムールで販売しております。もう1件につきましては、円形のサブレに、東芝プレイブルーパス、サントリーサンゴリアス、ラグビーのまち府中のロゴマークを印字したものを3枚入りで販売しているところでございます。次に、のKPIは先ほど委員からも質問がございましたが、5事業ありまして、1つ目はラグビートップリーグの開幕前に、東芝プレイブルーパスとサントリーサンゴリアスが東芝のラグビー場でプレシーズンマッチを行っております。こちらは8月頃に入場料等は無料で開催しているものでございまして、参加人数は約1,300人になります。2つ目はラグビーフェスティバルで、府中市、調布市、三鷹市の3市でラグビーの試合や小学生向けのタグラグビー教室を開催しております。こちらにつきましても東芝やサントリーにご協力いただきながら実施しておりまして、参加人数は約3,000人でございます。3つ目は1月に味の素スタジア

ムで開催された東芝とサントリーのラグビートップリーグの公式戦につきまして、市民1,000人無料招待を実施しております。この試合では東京都も小中高校生の無料招待を行っており、本市におきましては合計約1,200人が参加しております。なお、試合自体の来場者数は約10,000人でした。4つ目は2月にラグビーのまち府中デ をけやき並木通りのフォーリス前で開催し、東芝とサントリーの選手にシーズンの報告をしていただき、報告会やトークショーを行うとともに、この年はサントリーがリーグ優勝をしましたので、優勝報告会も実施し、参加者数は約1,000人でした。5つ目はラグビーワールドカップが2019年に向けて、開催都市である東京都と連携し、日本代表とアルゼンチン代表の親善試合のパブリックビューイングを開催しております、参加者数は約1,000人でした。これら5事業の合計参加者数が約7,500人となっているものでございます。

会 長 ありがとうございます。今のように具体的な情報があると各委員も意見が出しやすいと思いますので、事務局は資料の作成をお願いします。

委 員 2点確認したいのですが、1点目は のK P Iについて、目標が5件に対して実績が3件となっていますが、目標を達成しなかった要因をどう捉えているのかです。例えば、話は進んでいたが実現まで至らなかったのか、または協力してくれる事業者がいなくて検討にも至っていないのか。後者の場合、残り3年間で目標を達成することは難しいと思いますが、その要因を捉えておく必要があると思います。2点目は既に開発された商品の後追いをしているのかです。作製した事業者の売上に少しでも寄与しているかなどの情報がわかれば教えてほしいです。

事務局 1点目につきましては、ラグビーのまち府中推進委員会には商工会議所や観光協会の方が委員に入っております、商品開発を行うにあたり、市内事業者にピンポイントでお声かけしましたが、市が具体的に商品に関する構想がなかったこともあり、開発にはつながらなかったところでございます。2点目につきましては、申し訳ございませんが把握できておりませんので、次回の会議までに確認し、情報提供させていただきます。

委 員 もし、好事例が生まれていれば追随してくれる事業者も出てくると思いますので、確認をお願いします。

会 長 私は目標としている20件は非常に厳しい値だと思います。

委員 市内事業者へのアプローチとして、まずは「お菓子」の 카테고리で動きましたが、なかなか難しい面が多く、目標値の20件は厳しいという意見もあります。今後、飲食メニューの開発に関しては、まちづくりの動きのなかで十分にアピールしながら、主管課とともに相当な努力をする必要があると考えています。

会長 観光協会に所属する委員が仰っているとおり、厳しい面があると思います。飲食メニューの開発については、具体的な商品として正式に導入するとコストがかかってしまうため、例えば何かのイベント開催時のみ販売する商品などが考えられるとよいかと思います。

委員 ラグビーワールドカップが開催されることを契機として、「一緒に何かを作ろう」という、こちらの熱い気持ちが市民の方や市内企業の皆さんに伝わり、全体で機運を高めていければと思います。そして、KPIの数値として結果も出さなければいけませんので、今後も引き続き取り組んでいきます。

委員 そもそも商品の開発について、2019年を到達点としているのか、それ以降の持続性や継続性まで見据えているのか、その考えがあれば知りたい。

事務局 市では関連する施策において、2019年と2020年を1つの契機として捉えておりますが、「ラグビーのまち府中」を掲げる以前より「スポーツタウン府中」を掲げるとともに、「地域に根差したスポーツタウン府中の発展」という目標を府中市スポーツ推進計画に定めており、これまでも様々な取組を進めてきております。また、地方創生に係る国からの交付金は時限的ではありますが、この機会をチャンスと捉えて関連する事業で活用しております。この商品開発等の件数というKPIはこの時限的な交付金に関する指標にはなりますが、市としては先を見据えた上で、スポーツタウン府中の発展に日々取り組んでいるところでございます。

会長 事業者にとって商品ラインナップにない新たな商品を作ることはかなりハードな要求だと思います。飲食店に対してラグビーに関連するものを一品加えてくださいということであれば、あまりコストはかからず、そこから可能であれば「B級グルメ」として結び付けることができればよいと思いますので、開発というものを幅広く捉える必要があると考えます。幅広く捉えない場合には、目標値である20件を達成することは難しいでしょう。例えば、富士山の形をした商品を作る、というコンセプトであればコストがかかる話ではな

いため、話題になったりしている実例もあります。

委員 商店会とタイアップした事業のなかで、飲食店において馬に関連する馬蹄のハンバーグを作ってもらったことがありますので、似たような発想でラグビー関連商品を作ってもらうことはできると思いますが、そういった仕掛けがまだできていないのが現状です。今後も引き続き検討をしていきたいと思いをします。

副会長 1,780万円の事業費はラグビーのまち府中推進事業だけなのか、地方創生関連交付金事業全体の事業費なのか、また、本交付金は継続して交付されることになっていますが、事業を拡大することは可能なのか、さらに、他自治体でない取組として小学生向けのタグラグビー大会が11月3日にあり、30チーム近くが出場しているが、このイベントが実績に入っていない理由を教えてください。

事務局 1,780万円の事業費につきましては、ラグビーのまち府中推進事業に係る平成28年度の事業費になりますので、他の事業は含まれておりません。次に、交付金につきましては、平成28年度は地方創生加速化交付金の対象事業は補助率10/10でございますので、この交付金は平成28年度のみとなります。平成29年度以降につきましては、地方創生推進交付金という補助率1/2の交付金となりまして、すでに交付決定をいただいておりますので、平成32年度まで概ねの事業費に対する交付金として確約はいただいております。また、毎年度、国では変更申請を受け付けておりますので、事業拡大の申請を行い、これが国に認められ変更交付が決定されれば、その拡大した事業費分の1/2は受けることができる形となっております。

会長 タグラグビーについては、全体の底上げにつながっていると思いますが、国に申請した交付金の対象事業ではないということですね。

副会長 タグラグビー大会は小学生が一生懸命プレーをして、ご家族の方も参加するなど、ラグビーに関する裾野を広げる事業だと思います。市がバックアップしている本市独自の事業だと思いますので、継続して実施してもらえらる仕組みづくりを考えて、交付金の対象事業にしてもよいと思います。

会長 協議会評価に今のご意見を入れることも選択肢の一つだと思います。

会 長 では、本事業の評価については、具体的な内容を事務局から情報提供してもらい、各委員から次回の会議でご意見等をいただき、まとめていくことにします。

次に、「中心市街地活性化事業」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （中心市街地活性化事業について説明）

会 長 ありがとうございます。質問ですが、 のK P Iはタイアップ来店数になっていますが、単位の「組」とはどのような意味でしょうか。

事務局 「組」につきましては、1人であっても、2人または3人であっても1組としてカウントする、という意味になります。

会 長 なぜ人数ではなく「組」でカウントするのでしょうか。

副会長 そもそも、その単位でしかカウントしていないからだと思います。

会 長 わかりました。この事業におけるK P Iの目標値は、先ほどの事業に比べるとハードルが低いように感じられます。他に何かご意見はありますでしょうか。

委 員 クーポンの冊子はどのように配布したのでしょうか。

事務局 2月、5・6月、10・11月の開催日に東京競馬場で配布したと聞いております。

委 員 東京競馬場内のどこかに冊子を置いていたということでしょうか。

事務局 競馬場内に置かせていただくだけではなく、所管課の職員が開催日に競馬場にて来場者に声をかけながら配布したと聞いております。

会 長 回遊性とは、具体的に店舗に行った後に、次の店舗に行くことを意味しているのでしょうか。

委 員 クーポンを店舗に持っていくとサービスが受けられるもので、1店舗だけ行く場合も含まれます。

会 長 それは回遊というのでしょうか。

事務局 この事業は平成27年度から始めた事業であり、平成27年度の実績は17店舗で104組の来店組数でございました。平成28年度からクーポンの冊子を配布して回遊性の創出を図るなど、毎年取組内容は変わってきております。

副会長 平成27年度の実績ではその日限りの有効期間となっておりましたが、平成28年度は期間を設けて、後日にまた来ることができるようにしたことで、回遊性を生んでいます。

委 員 平成28年度と平成29年度の実績内容が変わっているため、どのように評価するのが難しいところがある。

事務局 先ほど会長からご発言がありました回遊性の意味につきまして、平成29年度は回遊性の強化を図るために市内をエリアに分けて、それぞれのエリアを回ってもらうような取組として事業を拡大しております、その旨が「平成29年度における取組など」として記載されております。

委 員 本協議会で評価をするために、担当課にはもう少し事業内容の結果がわかる資料を作成してもらいたい。

委 員 このクーポンがうまくいったのであれば、ラグビーの関連イベントでも配ることができないか、検討してもよいと思います。

会 長 ラグビーバージョンが作れると面白いですね。今のご意見は、ラグビーのまち府中推進事業の協議会評価として意見を記載してもよいと思います。それでは次に、「百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業について説明）

会 長 ありがとうございます。この事業については、KPIを設定することが難しいことはよくわかりますが、「ちはやふる」を周知することで、府中駅

の乗降客数が増えるのかはさすがに疑問を感じます。分倍河原駅は片町文化センターに近いことから増える可能性はあると思いますが、他のK P Iには無理があるように思います。一方、担当課の取組は事業にリンクしていますので、今更K P Iに対する意見を言えるのかという問題もあります。皆さんはどう思われますか。

委員 今の会長が発言された内容は委員の全員が感じていることではないでしょうか。K P Iを見直せない場合はその妥当性について理屈を作った上で議論することになり、K P Iを見直せる場合はそのことも議論することになるため、議論の内容が変わってくると思いますので、K P Iの見直しができるのかを確認したい。

事務局 K P Iにつきましては、交付金がこの内容で認められていることから変更することはできませんが、その根拠については担当課に確認いたしますが、事務局の認識としましては、のK P Iは総合戦略の施策「市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進」と同じもので、のK P Iは片町文化センターの最寄り駅が分倍河原駅になりますので、アウトカム指標としての意味合いだと考えられます。のK P Iは、本事業が他市と連携する広域連携事業として交付金が認められ、3市が共通で観光施設の観光客数の指標をアウトカム指標として設定しているものでありますので、そういった背景をご理解いただければと思います。

委員 K P Iは変更できないということでしたので、K P Iと担当課評価を結び付ける形で本協議会では評価すればよいと認識しました。

会長 個人的な話になりますが、片町文化センターは子どもが小さい時期には行っていて、それ以降は行かなくなっていました。平成28年度に「ちはやふる」のラッピングがされたと聞いて、久しぶりに行ってみて、センター内の「ちはやふる」に関連した物も見てきました。そういった方は他にもいるのだと思いますが、そのあたりの動きを市としてどこまで捉えられているかは難しいと思います。

委員 本事業はK P Iを評価することが難しいと思います。府中駅南口第一地区市街地再開発事業が完了し、府中駅の乗降客数は平成29年度以降も増えることが想定され、このように別の要素の影響が大きいK P Iだと思いますので、事業そのものを評価するしかないと思います。

会 長 先ほどの議論を踏まえると、協議会評価はK P I評価と担当課評価を総合的に評価するものになりますので、悩ましいところです。

委 員 片町文化センターの来館者数と他の文化センターの来館者数の比較はできるのでしょうか。

委 員 来館者をカウントするメダルがあるので、人数の把握はできると思います。

委 員 来館した際に、箱にメダルを入れることでカウントはできますが、住民票の交付のために来館した方などはカウントしていないと思います。

委 員 恐らく、イベントの際にもカウントしていると思います。

副会長 カウントしている来館者数から、傾向を捉えることはできると思います。

委 員 もともと文化センターは複合施設であり、市民は様々な理由で来館するため、来館者数をそのまま評価することは難しいと思います。

会 長 各委員より色々な情報が出ました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委 員 情報提供として、「ちはやふる」の映画が平成28年度に第1部・第2部が公開になり、今月には第3部が公開になりますが、本市が映画の中で出てくる場面は1か所だけになります。幼少時に主人公である千早が育ったまちが本市であり、分倍河原駅の近くに住んでいて、競技かるたに会うというストーリーになりますが、今回の映画は近江八幡が舞台になっていることから、本市が登場する場面は少しだけです。なお、映画の公開に合わせて、デジタルスタンプラリーを3月31日まで実施しています。

会 長 主演は「広瀬すず」さんですが、もし主演の俳優を呼ぶことができれば、相当の集客が見込めると思います。

委 員 市は観光協会へ委託し、イベントを実施する予定でありますが、同

じご意見は出ています。

会 長 では、本事業についての議論はこれまでにします。

次に、「市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 （市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業について説明）

会 長 ありがとうございます。質問ですが、 のKPI「大規模商業施設の年間販売額」について、伊勢丹は単一事業者のため把握できると思いますが、くるとフォーリスは様々な店舗が入っていますので、どのように把握するのでしょうか。

事務局 この実績値につきましては、本市で平成28年5月に作成した「中心市街地活性化基本計画」に載せている指標でございます。実績は本市が独自に調査したものになります。

会 長 アンケート形式の調査なのでしょうかね。

副会長 くるとフォーリスについては販売額が把握できていますが、ル・シーニュに関しては現状、把握できていません。

委 員 平成29年度にはル・シーニュがオープンしたため、販売額は増えることが明らかだと思いましたが、再開発前の店舗の売上げがわからないなかで、単純に平成28年度の評価をしてよいものか疑問があります。

会 長 新しくできたル・シーニュは珍しさもあり、売上げは好調だと思いますが、このことで伊勢丹の売上げが下がってしまっただけでは意味がなく、撤退されるような事態になっては困ることになります。このため、パイの奪い合いにならないような施策が必要になってくると思います。

副会長 担当課が「平成29年度における取組など」に記載している の「募集要項等の作成・公表等を行った」や、 の「まちづくり府中への委託を行った」の内容については、「中心市街地活性化事業」と重複しているのではないかと。平成29年度以降は集約することになるのだろうか。

会 長 今、委員が発言された の内容については、老朽化した施設の売却を行うことにより、学区内小学校の教室不足が発生するため、市による活用を図っていくと記載されており、こういう問題が現実としてあることはわかりませんが、人口ビジョンや総合戦略では人口を増やすことを目的としているため、整合的でないことに少し違和感があります。この点は、担当課とこの記載内容で問題がないかを確認しておいてもらいたいと思います。他にいかがでしょうか。

委 員 担当課が として記載している取組については、ロードマップのような物を示してもらえないでしょうか。K P Iは実績が「0」ですが評価は「A」となっており、今後、平成29年度以降の評価をする際に、いつまでにどこまで達成していれば順調に進捗していると言えるのかがわからないと評価できないと思います。

会 長 そのロードマップのなかで目標値の根拠も明確にしてもらいたいと思います。事業費約480万円は事業規模としては小さいと思います。

事務局 について、市は「公共施設の再編にかかる基本方針」を作成しております。この方針に基づいた内容で、お示しできる範囲でロードマップのような資料を作ることを担当課と協議してまいります。また、東京競馬場とのタイアップ事業など、「中心市街地活性化事業」と重複するように見えてしまう点についても、資料を修正する方向で担当課と調整いたします。

会 長 本事業についても詳細な資料を示してもらわないと評価できないということだと思いますので、情報提供をお願いします。

会 長 それでは、他にご意見等はないようですので、本日の審議はここまでとします。事務局は本日の審議における意見に基づき、資料の作成をお願いします。次回の会議ではその資料に目を通した上で、本協議会としての意見・評価を確定したいと思いますので、よろしくをお願いします。

【その他】

会 長 最後に「その他」として、委員の皆様から何かありますでしょうか。事務局からは何かありますか。

事務局 事務局から2点ご連絡させていただきます。1点目は次回会議の日程につきまして、4月下旬から5月頃に開催を予定しておりますが、詳細は今後委員の皆様と調整させていただきたいと思っております。2点目は次回の議題につきまして、地方創生関連交付金対象事業の平成28年度評価票を確定させていただきたいと考えております。本日いただきました様々のご意見を担当課と調整し、その上で作成した資料を委員の皆様へ送付いたしますので、その内容をご確認いただき、ご意見やご質問がございましたら事前に事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。そのご意見等を踏まえまして、会長及び副会長と調整をさせていただき、取りまとめた評価票を次回の会議で委員の皆様にご確認いただければと考えております。

会長 各委員は送付された資料を確認いただき、意見や質問は事前に事務局までご連絡をお願いいたします。

以上をもちまして、平成29年度第3府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、お疲れ様でした。